

## 2014年3月期 決算説明会 質疑応答

2014年5月8日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

**Q1: FY14 のカンパニー別の増益要因は何か？また、FY16 までのロードマップを通じて生み出される利益額は、どの程度を見込むのか？**

**A1: 心臓血管カンパニーは公定価格の影響や開発費の増加により若干の減益、血液システムカンパニーは欧州における規制対応により若干の減益見込み、ホスピタルカンパニーは薬価改定の影響はあるが、FY13 のマイナス要因に対する生産性改善によりトータルで増益を見込んでいる。FY16 では事業利益率ベースで 20%を目指していく。**

**Q2: 中期経営計画において FY12 から FY16 へ粗利益率 3 ポイントを改善することを目指していたと理解している。今回のロードマップにおいて現状 17%の利益率から FY16 に 20%にするということは、追加の粗利益率の改善をどの程度見込んでいるのか？**

**A2: FY13 の実績を踏まえ、中期経営計画で想定した売上高・利益額の達成は環境的にも厳しいと判断、その認識の下でもう一度積み上げて FY16 のれん等償却前の営業利益率ベースで 20%を目指す。中期経営計画との相違点は、事業・地域で棚卸を行いビジネスモデルの転換を進めることにある。これにより発生する減損等の処理は FY13、FY14 で進めていく予定。**

**Q3: TCVS 社に対し FDA から受けた追加の指摘内容は何か？また追加費用 30 億円を含め、FY14 までに累積 220 億円の費用に達するが、年商 300 億円の TCVS 社のビジネスに対しそこまで投資を継続する理由は？**

**A3: FDA からは新しい品質システムの運用面の実績をもう少し積み上げること、そしてその工程を検証するための追加のデータ取得を求められている。品質システムについての FDA との合意は、米国で事業行う上での必要条件と考えている。投資を伴っても、しっかりとやり切る。**

**Q4: 事業・地域の棚卸について、具体的にどのような内容を検討しているのか？計画段階の内容は FY14 の業績見通しに反映されているのか？**

**A4: FY13 では、主に CV 事業及びホスピタル事業の輸液関連生産設備の減損を実施した。FY14 の業績予想の中で一部は織り込んでいるが、最終決定していない案件については、計上していない。**

Q5：ここ2年の環境変化に対する会社の課題は何か？

A5：事業の海外展開が広がる中で収益責任が不明確なマトリックス経営では環境変化に対応できていなかった。そこでこの4月にカンパニー経営への移行を断行した。生産工場もカンパニーの所属とし、営業もカンパニー別と明確にした。

Q6：ホスピタル事業の新製品立ち上げ遅れとは、具体的に何が起きたのか？

A6：静脈留置針や輸液ラインの新製品において、付加価値の向上に伴う製品構造の複雑化により歩留りが悪化した。設備改善や海外工場移管による原価低減の取り組みを進めており、徐々に効果を発揮し、FY15から大きく収益貢献することを期待している。高カロリー輸液剤は、想定を下回る薬価と歩留り悪化によるコスト高の問題に直面した。この生産設備は当初の想定と収益性が変わったこともあり、減損処理を実施した。

Q7：FY14業績予想は新たな特損計上等により今後変動する可能性があるのか？

A7：特損等は最終決定してから開示基準に則って適切に計上していく。

Q8：営業利益については4期連続で業績予想を下回った。FY14の業績予想の確度をどの程度みているか？

A8：業績予想に達しなかったことには非常に問題意識をもって受け止めている。FY14はしっかりと足場固めしながら、業績予想を達成していきたい。

Q9：薬剤溶出型ステント Nobori と Ultimaster はどのように切り替えていくのか？

A9：Noboriは競合品との住み分けの中で大口径の入口部等を中心に使用されてきたが、Ultimasterはより幅広い症例に対応した製品であり大きな市場を目指す。NoboriのFY13売上げはグローバルで約150億円。FY14はUltimasterが6月から欧州・アジアを中心に販売開始するのに伴い、NoboriからUltimasterへ置き換えを進め、FY14で20～30%、FY15は50%程度までカバーしていく。

Q10：設備投資のピークはFY13であり、今後キャッシュフローの改善を見込んでいると思うが、設備投資と償却が見合った時期を次の買収機会と捉えているのか？

A10：CFに関してはご指摘のとおり投資と償却のバランスは取れていくので改善していくと考えているが、買収に関してはタイミング次第である。設備と償却のバランスが取れてくるので資金を下げない形となる。買収については別途ファイナンスを考えて進めていく。

以上